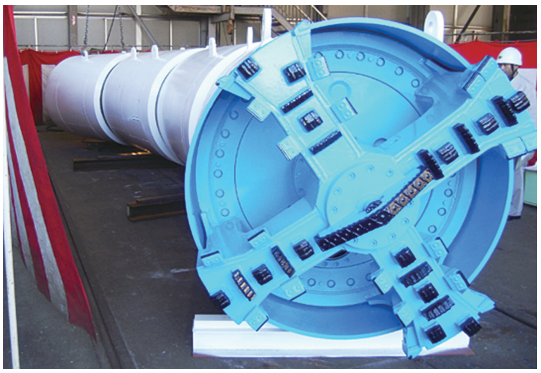
解説

推進工事のプロになるために

椎野（しいの）　光保（みつやす）
デュアルシールド工法協会
技術委員
（推進工事技士）

1　はじめに

私が土木工事の世界に携わってから30年になります。現在の会社に入社して、主に推進工事やシールド工事の現場を経て、現在は技術部に所属し、弊社が開発した、シールド切替型推進工法（デュアルシールド工法）に携わり、よりよい工法になることを目指し、日々奮闘しております。現場配属時には、呼び径300の小口径管推進から、φ10mのシールド工事までいろいろな推進工事やシールド工事を経験することができました。先にも述べましたが、弊社では今、推進工事とシールド工事を融合したデュアルシールド工法を首都圏（主に東京都）に展開しております。シールド切替型推進工法とは、これまでの、推進工法かシールド工法のどちらかを選択するのではなく、推進工法とシールド工法を融合させた工法です。発進から先ずは推進工法で可能な地点まで施工し、



写真－1　デュアルシールド工法ID1100掘進機（R=12m対応）

写真－2　推進管と鋼製セグメントの切り替え箇所

図－1　シールド切替型推進工（デュアルシールド工法）の概要図